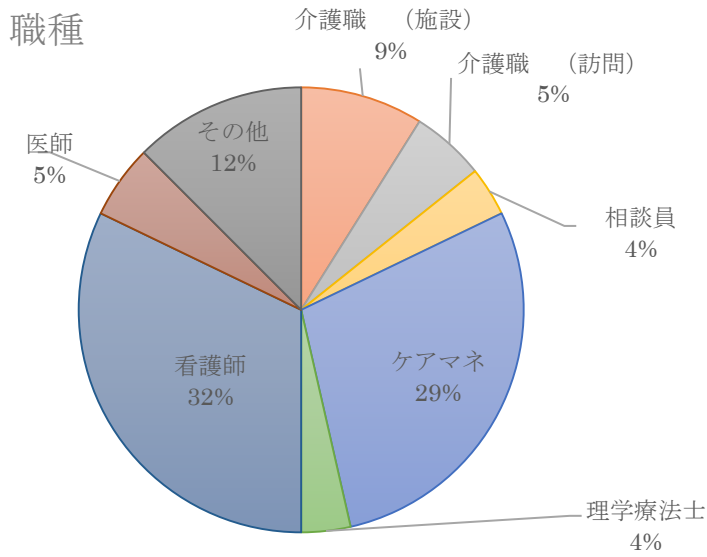


在宅・施設での看取りとグリーフケア 研修アンケート結果

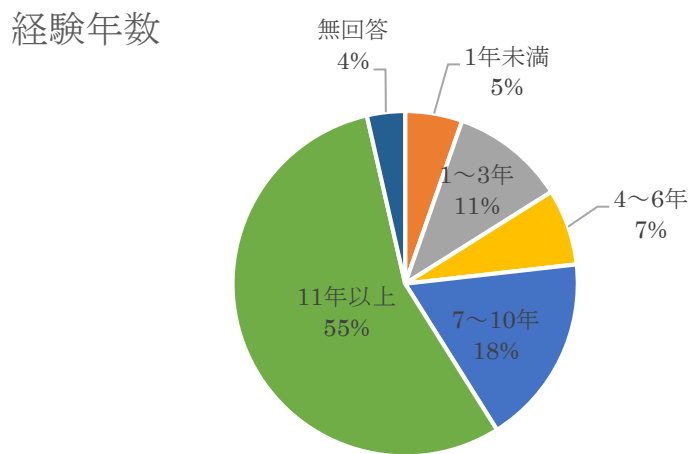
2018年2月12日(月) 青葉区役所 4階会議室にて

出席者: 69名 アンケート回収: 56 回収率 87.5%

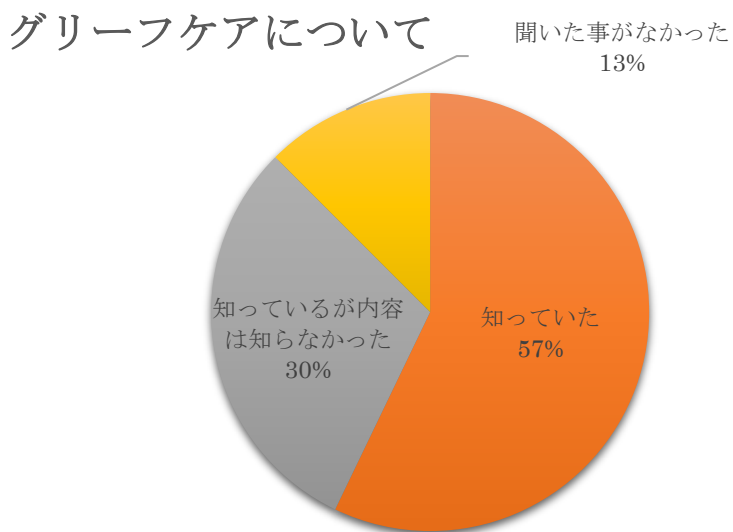
①



②



③



2-①サービスや支援など、どのようなものが必要だと考えますか

- ・医療従事者だけでなく地域の方、ボランティアなどの存在がとても大切だと思いました。
- ・家と病院以外の第2のふるさとのような、気軽にフラッと立ち寄って心を吐露できる場所
- ・グリーフは焦点化出来ない、多面的な情緒不安定に対する丁寧な関わり
- ・「グリーフケア」についての知識を持っている人を増やす必要がある
- ・精神的な支援が専門的に行えるサービス
- ・看取りに関わっている方たちが職種や領域の壁をこえて集まって勉強する機会をもつこと、支えあうこと
- ・家族が望む最期の過ごし方に寄り添う支援法を学ぶ機会

2-②私たちができることは

- ・日常のケアから身体喪失感、孤独感等に寄り添うコミュニケーション能力をあげていく
- ・QOLをあげること→身体機能にとらわれない
- ・チームで支える事を意識していきたい 無理して支えない その人に寄り添う
- ・医療者と生活者・家族で考えが違ふことを理解する
- ・自分たちが正しいグリーフケアについて知識を身につけていきたい
- ・傾聴の場が増えたらもっとQOLを高める為にどうしたらよいか、患者さんご家族と一緒に考えたい
- ・グリーフというものがとても幅広く多様であることを知ること
- ・医療的なことだけではなくその人自身を少しでも知り、理解し話を聞いてコミュニケーションが取れるような努力をしていきたいです。先生がおっしゃったようにファシリテーターの役割ができるようになりたいです
- ・多職種の連携は必須!!

2-③地域のできることは？

- ・自助
- ・ご近所付き合いの復活
- ・住民を巻き込んだ意識高上（向上）
- ・気軽に集まったり、立ち寄って思いや考えを共有できるカフェのような場所の運営
- ・余計なことは言わないが、困っている時には協力できるような体制作り
- ・医療職だけでなく介護職もグリーフ、グリーフケアについての知識を得る必要があると思います
- ・多様な資源を発見し理解すること。意見交換、情報交換ができること。気軽に声を掛けあえるそんな地域を作っていきたいです

3 地域の方が必要としている、または不足している支援とは？

- ・在宅医療へのアプローチ（まだまだ浸透してないと感じます）
- ・医師も看護師も忙しく何をしようとしているのか、どのような意見を持っているのか、全く分からないと言われました。全くその通りだと思います。やはり今後はもっとコミュニケーションをとり地域で考える機会が沢山あると良いと思いました
- ・病気や障害を持った方が憩える場所、ただそこにいて過ごしたり話したり相談できる場所
- ・健康や死に関する知識（セミナー等で意識を変えていくこと）
- ・知識をつけられる学びの場
- ・お互いさま という支援。プライバシーやリスク回避のためコミュニティが行き詰まっている
- ・介護保険以外の定期的に参加できる運動、会話の多様なプログラムの場
- ・色々な職種があること、会やインフォーマルサービスがあることを知識情報提供する

《自由記載》

- ・グリーフ反応の一つに「怒り」があると言われるが、運命に対する怒りなので受け止めましょう、とありました。「クレーム」という形になることもあり難しい
- ・「焦点化しない」「健康に死ぬ」「自分が選んだケア」の3点は今後の業務に活かしていきたい
- ・奥が深いもの。生活全般にグリーフケアがあると分かった。偏った考え方をしていたが「悲嘆」のケアは日常だと思って仕事をしようと思った
- ・先生の話は、とても難しかったが興味深く心に残る内容であった
- ・健康に死んでいくこと=グリーフケアのスタートという話、自分に何ができチームで何ができるのか考える良いきっかけになりました
- ・グリーフケアについてもっと多くの職種で理解できる場があること願います
- ・先生の貴重なお話が聞けて良かったです